

## 埼玉県医師会・比企医師会

### 東松山市立市民病院飯島医師の宮城県南三陸町での活動

◆日程：4月8～11日

1) 人員 医師 東松山市立市民病院 飯島謙次

2) 被災地の状況

一番大きな避難所で拠点であるベイサイドアリーナは、マスコミや医療関係者、自衛隊、その他の出入りが激しかった。ライフラインはすべて止まったまま。大きな避難所では隣の避難者との境界線は、低い段ボールや布団を積み上げている程度でプライバシーや衛生面でも欠けていた。

南三陸町の旧志津川町内の避難所ではノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行ってきており、それぞれ隔離して対応していた。トイレの手洗水はある所とない所があり、ない所ではウェットティッシュやアルコール消毒のみでノロウイルス感染対策としては不足していた。手洗水のある所でも水は不足しており石けんでの手洗いは出来なかった。

物資は充足していたが足りないものは足りないままという状態であった（南三陸町の HP 参照）。感染性胃腸炎の拡大防止のために、ディスポ手袋、ディスポエプロン・ガウンは不足していた。物資は毎日多量に運び込まれるがそれを振り分けることが追いつかず、振り分けているボランティアの方も被災者であり、実際うまく回っていない印象であった。そのためかおむすび、パンなどは賞味期限切れのものを出されるということになってしまっていた。

薬品はかなりの種類のものであった。避難所によりまちまちなようだが夕方の本部への報告すると、本部にある薬品は翌朝のカンファランスまでには準備してもらえるような状況であった。もちろんその日のうちに取りに行くことも可能であった。分包機はなく小児用の散薬は仙台の徳州会病院で作ってもらっているとのことであった。ただし各グループが独自に持参していったものもあるのでそれを使っていた。

以下3日間派遣されていた歌津中学校での状況。

区長がおり、その方が避難所での指揮を執っていた。

入浴は仮設風呂で可能であり気持ちよく入浴出来た。食事も持参していたが、どうぞどうぞと勧められるので各グループとも遠慮がちではあったが同じ釜の飯ということにしてくれた。食事は3食とも配給されていた。

21時に自衛隊による外部照明は消灯でそれまでには就寝している方が多かった。朝は6時半から皆でラジオ体操をして掃除をした。

NTTによる衛星電話は21時まで無料で使用可能、ドコモは電波良好、auも窓際なら使用

可能。ソフトバンク不明。

就寝はそのまま保健室で、寝袋で寝た。24時間診療体制を取っていたが20時以降の来院はなかった。夜中に鼻出血の患者が直接救急搬送されたが、耳鼻科用の備品もなく鼻出血で焼却治療を2回したという治療歴もあったので後方病院にお願いした。

### 3) 活動状況

第1日(4/8)は、前日の強い余震のため現地入りが10時程度になってしまった。一日の活動は、朝7時半から本部のベイサイドアリーナでカンファランスをして、その後それぞれの避難所へ行き診療にあたり夕方その日の報告を本部にあげるというものであった。定期的に派遣されているグループは同じ避難所で、単発で来たグループはその科がない避難所に割り振られるという形を取っていた。

午前中は志津川小学校、午後は志津川高校へ派遣された。

どちらもノロウイルス感染者が隔離されていた。人数は数名ずつ。症状はいずれも軽かったが、高齢者の避難所生活者も多く衛生状態も悪いため拡大を懸念していた。

第2～4日(4/9～4/11)は歌津中学校に派遣となった。奈良県医師会チーム(精神科医1名、薬剤師1名、看護師1名、事務員1名)、山梨大学チーム(外科医1名、看護師2名)、熊本県の整形外科医と一緒に学校の保健室で診療に当たった。

小児患者としては、感冒、花粉症(+粉塵?)、喘息、てんかん、アトピー性皮膚炎の悪化などであった。どこの避難所もおおむね年長児以下の乳幼児は津波を免れた知人・親戚宅などで過ごしており、避難所にはわりあい元気な大きな子たちのみであった。

健診のニーズもあり、往診で1ヶ月健診、3ヶ月健診をしてきた。ただ行政側もやっと乳児を把握できてきたという程度でニーズはあるが出来ていないという状況であった。特に1ヶ月健診時にはケイツーシロップのこともありあまり遅れるのは良くないと思われた。予防接種は残念ながら現段階では接種出来なかったが、そろそろ再開出来そうな目処は立ってきたということであった。自宅避難の子は震災後まだ3回しか入浴していないとのことでアトピー性皮膚炎の悪化が見られた。感冒は家族内で流行っている程度で、避難所内すべてで流行という感じではなかった。もともと高齢者の多い地区なので整形外科のニーズが高かった。水不足で手を清潔に保てないからなのか、麦粒腫など眼症状を訴える患者も多かった。

### 4) 今後について

今後イスラエル医療団の拠点を使ってもととの志津川病院の医師が診療を再開予定である。現在は統括として、また各避難所の医師として活躍中。

もともと南三陸町は志津川町と歌津町が合併して出来た町なので各区域はそれなりに距離があり、やはりそれぞれに医療拠点を引き続きなければならないと思われる。津波で車などすべて失っているので移動手段がなく、歩きや自転車で行ける距離でもない。おそらく普段の南三陸町に比べたら5倍も10倍も医師がいると思われるが、それでもやはり少なくなっている

けないと思う。住民のニーズと県などの統括本部でのニーズにはズレがあると思われるので、出来る限り住民のニーズに合わせた派遣が出来たら良いのではないかと思う。復興までには時間がかかると思うが、応援し続けたいと思う。



昨年5月の南三陸町の海です。この海を取り戻したいです。

(文責：東松山市立市民病院 小児科 飯島謙次)